

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2023(令和5)年 12月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

御正忌報恩講のご案内

極楽寺の御正忌が変わります

持続可能なスタイルを模索してまいります

変更点その一

日程・時間が変わります

一日間に短縮します

一月十五日(月) 昼一時半

夜七時・九時(遠夜)

十六日(火) 昼一時半

法話は、住職が勤めます

※ 十六日は親鸞聖人のご命日です。

特に大切に勤めます。

変更点その二

お斎の時間が変わります

お昼だけになります

十二時半～二時半まで

お斎のご案内

【十五日】

野波瀬東側(一～四班)
室生

三隅豊原より下地区

【十六日】

野波瀬西側(五～十三班)

三隅豊原より上地区

(向山)

※ 都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

野波瀬の世話人の方は、担当区域の、お斎受付のお世話を願います(時間は昼になります)。



御正忌報恩講とは



親鸞聖人が亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。聖人は、誰もが尊ばれ敬われるお念仏の教えを、一生をかけて明らかにされました。

その歩みは、お念仏を「よりどころ」とし生きる力とした、たくさんの念仏者を生み育ててきたのです。そんな先輩方の歩みを受け継ぎ、聖人のご恩に報いる「報恩講」という行事は、この私の人生を本当に尊んでいく道を、確かめていくご縁でもあります。



2006年の御正忌で、お花入れ・お盛物をお手伝いして下さった方々です。

お寺のお世話をしてくださる、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願いします。

総代長	松野行利さん(野波瀬)		
副総代長	吉見周平さん(市)		
会計	木村重彦さん(向山)	総代	野村昭一さん(上東方)
監査	藤村勇次さん(久原)	総代	小林一成さん(豊原)

野波瀬西側	田中征二さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	田中正幸さん
	宮崎節子さん	久原	宮本雅志さん
	青海隆司さん	向山	木村辰也さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村正起さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	河野光芳さん
野波瀬東側	田中成敏さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		山中博之さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		坪野実人さん
	岩本国久さん	平野	松田義照さん
辻並・中小野	松並唯夫さん		

平野の世話人を20年9ヶ月務めてくださいました山中洋介さんが退任され、新しく松田義照さんが就任されることになりました。

おしえのかげら

OSHIE NO KAKERA



今年一年を振り返って 「人間らしく」

昨年末に、前住職がお浄土に往生させていた
だいたこともあり、今年は何年以上に慌ただしく、
あつという間に過ぎたように思います。「人が一
人死ぬということとは、こんなにも大変なことなの
か」と、身をもつて経験しました。同時に「人が
一人生きていたということは、こんなにも大きな
ことだったのか」ということも教えられています。
近頃は、忙しい時代ですから、葬儀も簡略化の方
向へ進んでいます。華やかさや贅沢さは必要ないと、私も思います。
ただ、「家族だけで、勤めます。お参りはご遠慮ください」としてし
まうのは、また違うのではないかとも思うのです。亡き人は、家族
だけのものではありません。たくさんの人と共に生きてこられたの
です。お別れをしたい、参列したいと切に願われる方もおられるは
ず。そのつながりを断ち切ることは、一人の人間が生きていた事実
を軽々しいものにしかねません。

葬儀の際、多くの方々からのお志をいただくことは、お返しを
考えたり、手配したりと、ある意味煩わしい作業が伴います。↘

ERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~

でも、その作業の大変さがあるからこそ、亡き人が、様々なつながりの中で生かされていた事実を知らされる。そして私も同じ事実を生かされていることに、気づかされていく。そんな「人間の事実」「人間らしい生き方」が、葬儀という営みを通して、くつきりと見えてきたような気がします。

納骨堂新築計画 少しずつ進んでいます

昨年よりスタートした、老朽化による極楽寺納骨堂新築計画も、十年後に向けて少しずつ歩みを進め始めました。しかしいくら計画しても、十年後の物価がどうなるかは、現時点ではわかりません。「今のペースで高騰すると、どうなることやら」と頭を抱える毎日です。ただ、新築にはまとまったお金が必要ですから、準備期間を考慮して、皆さんに早めにお伝えせねば。そんな思いから、早い時点での計画スタートを発表しました。どうぞご理解ください。↙



しかし、新納骨堂をどのようなものにするかを考えれば考えるほど、「維持・補修だけでなく、壊す時のことまで考えて計画する」ことの必要性を、ひしひしと感じます。なぜなら、現在の納骨堂を壊すことの困難さを思うと、これもまた頭が痛い問題だからです。

実は、極楽寺の納骨堂と同時期に建てられた建造物が、今、大きな問題を抱えているようです。高度経済成長期以降に建てられた鉄筋コンクリートの建造物は、その堅牢さから人々に安心感を与えてきました。しかし、どんなものであっても、いずれは老朽化を迎えます。それを思えば、維持・補修は必要ですし、いざれ壊すことにもなります。それは誰もが、わかっているはず。しかし目の前の安心感からか、問題は放置されたまま今日を迎え、深刻な問題となっています。『NHKスペシャル』「老いる日本の住まい」という番組では、そんな建物を数多く紹介していました。

仏教では、世の中のすべてのものは「諸行無常」だと教えます。どんなものでも必ず移り変わり、永遠に変わらないものはないのだと。堅牢な建築物も、永遠に変わらず建ち、



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

続けるものではありません。その事実から目を背けたことで、そのツケが今になって深刻な問題として突きつけられているのです。

それは建物だけではありません。私自身も、いずれ老い、病み、死んでいく事実を抱えているのです。そんな「人間の事実」を踏まえ、「人間らしい生活」とは何かを考える。その必要性を、改めて感じていきます。

新井カープ、大躍進！

さて、開幕前、多くの評論家から最下位だと予想されていたカープは、見事2位でシーズンを終えました。その原動力は、新井貴浩新監督だと言えるでしょう。コーチ経験もない就任一年目の若手監督ですから、当初は不安視されていましたが、とんでもない。見事に、チームを変革してくれました。

「監督は私。批判も結果も全部私が受け止めます」と選手に責任を押し付けない。「積極的に行く中で、のミスはいいからと言っている。それを取り返すチャンスはたくさんある」との背中を押し、不調の選手には「彼だつたら乗り越えられる」と期待の言葉をかける。「たくましくなったよねえ」と選手の成長に目を細め、

OSHIE NO KAKERA

結果を出せば「自分で殻を破ってくれた」と手柄は選手に。ここ数年出番の少なかったベテランが、久しぶりに活躍すると「彼はどんな時でも最高の準備をしている」と泣かせるようなコメントを。そして、喜ぶ時はみんなで一緒に。

そりやあ選手が、生き生きとしますよね。こんな監督の下で働きたいと思うような、新たなリーダー像を示してくれました。(新井監督のコメントは、すべて三田広島放送局『新井貴浩監督リーダーのことば』より)

私たちはこれまで、「強いリーダー」を求めてきました。強烈なリーダーシップで皆を引っ張り、停滞感を打ち破り、スピード感をもって変革していくリーダーを。気づけば、企業も政治もトップに力が集中し、トップの指示に皆が従う組織が多くなりました。

とは言え、トップであろうとやはり人間なのです。完璧ではありませんから、判断ミスも起こります。保身に走ることもあるでしょう。状況を見視した指示が、現場の人を苦しめることもある。人間が駒のように扱われ、逆らう者は切り捨てられ、結果が出なければ責任はすべて現場に押しつけられることも。そうなるので



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

現場は、誤魔化してでも、不正をしてでも、指示されたノルマをこなさねばならなくなる。そんなことが、実際に起きています。強い力が集中するほどに、その影響は様々などころにまで及ぶのですから。ビッグモーター社の事件は、その象徴的なものだと言えます。

カープの黄金期を支えた名選手・

高橋慶彦さんは、「監督業って、最終的には将棋の差し手なんよ。ただ、将棋の駒に心はないけど、選手には心があるから。人間やけんね。心がついてくれば、1+1は2じゃない。無限大になる。そのかわり、心がついてこないと、1+1がマイナスになることもある」(web スポルティバ『1992年の猛虎伝 阪神移籍後の高橋慶彦は「新庄と代えて」と進言』)と言われます。

まさに新井監督は、選手を一人の人間として尊重したのです。弱い部分もある、失敗することもある。それらを含めて、「人間らしく」接していた。だからこそ、選手の心もついてきた。カープ躍進の原動力は、ここにあると私は考えています。

実は新井監督だけではなく、今年パ・リーグ三連覇を果たしたオリックスバファローズの中嶋聡監督も同タイプのリーダーな



のだそうです。企業やスポーツ組織について研究する順天堂大学院の水野

基樹教授（経営組織論）は、中嶋監督

を「伴走者のようなリーダー」と分析し、

「トップダウンでグイグイけん引するよ

うな従来のスポーツチームの監督とは

真逆のリーダー。寄り添って、支えてあ

げるといような上司のもとでは部下

が伸びる。それは産業界もスポーツ界も同じ」と評価しています。

（オリックス3連覇 中嶋聡監督が「持続可能な強い組織」を作る理由

毎日新聞 2023/10/11）

考えてみれば、WBCを制覇した野球日本代表の栗山英樹監

督も、W杯で歴史的勝利をあげた男子バスケット代表のトム・ホーバ

ス監督も、選手とのコミュニケーションを重視していました。夏

の甲子園で優勝した慶応高校野球部も、準優勝の仙台育英高校も、

選手の自主性を大切にしている監督でした。NHK大河ドラマ『どう

する家康』でも、強いトップダウン型のリーダー織田信長とは対

照的に、家臣団が心を合わせ、生き生きと主君の家康を支える徳

川家が描かれています。

これは、「私は駒ではない。人間なんだ」「人間らしさを認め

中嶋聡監督



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

て欲しい」という人々の思いが時代の要請となり、それを汲み取った人たちの営みによって形になったのではないか…などと私は思っているのです。

そして何より、「人間の事実」を踏まえ「人間らしさ」を尊重する歩みの重要性を、私は親鸞聖人の後ろ姿に学ぶのです。老い、病み、死んでいくという事実を抱えた人間が、弱さ、愚かさ、悲しさ、切なさを持ったままに尊ばれ、支えられ、救われていく道を示された姿に。その豊かで、確かな足取りに。

親鸞聖人が誕生されて、今年で八百五十年。そんな節目の年だからこそ、「人間らしい社会」「人間らしい営み」を、模索せねば。そんなことを考える年の暮れです。■

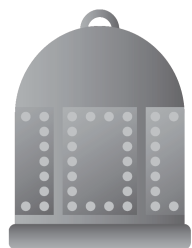
※ アレについては、悔しいので、触れません。

タイガースファンの皆さま、悪しからず。



ぼんしょう しゅもく 梵鐘の撞木

予備の木を、切ってきていただきました！



「梵鐘の撞木」とは、鐘を撞く木のことです。撞木に使われる木は色々ありますが、皮を剥いたシュロの木の幹が使われていることが多いようです。シュロの木の幹は真っ直ぐな繊維が集まった構造をしていて、適度に重く柔らかく、よく通る綺麗な音が鳴るからだとか。そういえば、お寺の境内にシュロの木が植えられているのは、撞木に使うためだと聞いたことが

あります。極楽寺もシュロの木を使っています。

今の撞木は2009年の住職継職法要の際にかけかえられましたが、長年本堂の床下で保存・乾燥されていたものでした。実はその時、「いずれは予備の木を用意しなければいけないなあ」と考えてはいたのですが、すっかり失念しておりました。

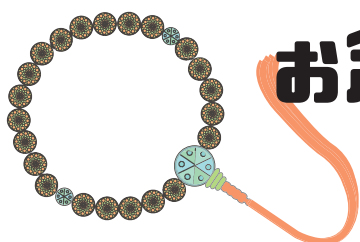
ところが今回、「予備用に」と野波瀬の田中征二さんと岩本国久さんが、自主的に切ってきてくださったのです。感謝、感謝です。ついでに、本堂の床下に保管までしていただきました。本当に、有難うございます！これで、安心できました。



古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置してあります。



お念珠の修理いたします

お念珠のヒモは切れるもの。不吉なことではありません。

お寺で修理いたします。お持ちください。

月々の言葉

Monthly Words



12月の言葉

今月の言葉は、せっかちな私には耳が痛い言葉です。スーパーのレジも、渋滞の高速道路の車線も、隣の方が早く感じる。だからといって隣に移動してみると、結局あまり変わらなかつたり、逆に遅かつたりするのですが…。どうして私って、隣のレジや車線は早く見え、隣の芝生は青く見えるのでしょうか。

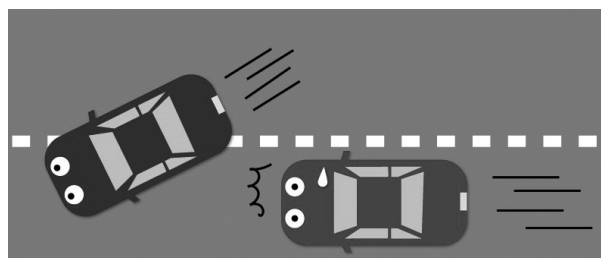
親鸞聖人は、「凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむこころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」(『一念多念意』)と示されています。凡夫である私には、無明煩惱(真実を明らかに見ることができないという迷いの根源)が満ち満ちていて、欲望も多く、怒りや腹立ちやそねみやねたまの心ばかりが絶え間なく起り、まさに命が終ろうとするそのときまで、止まること

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

もなく、消えることもないのだと。親鸞聖人のご指摘を、私の状況に当てはめてみると、「真実を明らかに見ることができないから、自分の置かれている環境に腹を立て、人をうらやましく思い、嫉妬する」ということになるのでしょうか。

真実を明らかに見ることができないから、他人が持っているものや環境が、やたらと良く見えてしまう。「あつちのレジは、流れている。うらやましい」「あつちの環境の方が、良いんじゃないか」、そんなことを思って隣に移っても、結局あまり変わらない。レジや車線くらいなら笑い話で済まされますが、人生までもそう受け止めてしまうと困りものです。他人と比較しては落ち込み、恵まれているものに気付くこともできず、人生を見失いかねません。

ところで、皆さんは「親ガチャ」という言葉をご存知でしょうか。「ガチャ」とは、硬貨を入れてダイヤルを回すと「ガチャ」と音がして、カプセルに入ったおもちゃが出てくるというものです。ゲームセンターやショッピングモール、スーパーにも置いてあります。出



てくるカプセルには、何が入っているかはわかりません。もちろん「コレとコレとコレが入っています」という写真は貼ってありますが、欲しいものが出るとは限らない。だから、「やったー！欲しいのが出てきた！」という当りの場合もあれば、「これ、もう持ってるよ。ガツカリ」といった外れもある。つまり、選べないのが「ガチャ」なのです。

そこから、「子どもは親を選べない」「当たりの親もいれば、外れの親もいる」ということを、「親ガチャ」と言うようになりました。

この言葉について、「結局は個人の努力の問題だ」といった自己責任論的な意見や、「親としては悲しい」という親目線での声が上がったり、話題となったのです。

しかし現実には、暴力を振るったり、異常に束縛したり、

子どもを所有物のように扱う親もいるわけです。そんな過酷な状況にいる子のことを考えれば、こんな言葉が出てくるのも、わかるよな気がします（近頃は「上司ガチャ」「先生ガチャ」という言葉もあるのだとか。実は私も、外れだと言われているのかも…）。

ところが、「親ガチャ」という言葉は、過酷な環境にいる子ども



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

たちが使っているだけではありません。実は、裕福な家庭で育った子どもたちも使っているのだそうです。「お前んちはいいなあ。海外に別荘があつて。うちは、軽井沢にあるだけだよ。親ガチャ外れだ」といった様に。環境に恵まれているにも関わらず、人と比べてうらやましく思い、「親ガチャ」という言葉を使っている。人間は、環境が良くなっても満足しないのですね。確かに、無明煩惱は一生消えず、絶えないようです。

とはいえ、過酷な状況にいる子どもたちに「環境が変わっても、満足するとは限らないよ」とは言うてはなりません。それはあまりにも傲慢で、失礼な態度です。仏法は「縁（関わり つながり 条件）」を重視する教えですから、環境が与える影響もまた重要視します。より良い環境となるのであれば、時には逃げ出すことも、助けを求めめることも必要なのです。

つまり、環境をより良くしていくこと、人生とどう向き合うかを考えること、どちらも大切にしなければならぬのでしよう。隣をうらやんでも、仕方がない。それを受け止めてなお、より良いものにするにはどうすべきかを考えねば。私の人生は、ここにしかないのですから。

キリスト教の神学者ラインホルド・ニーバーが神に捧げた、有名な

な祈りの言葉があります。

「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、

変えられるものを変える勇氣

と、

その両者を見分ける英知を我
に与え給え」(渡辺和子訳)

人生には受け入れなくてはな

らないことがある。同時に、人

生にはより良いものへと変えて

いけることがある。これこそ、人生との向き合い方なのだ。「ニー

バーの祈り」と呼ばれているこの言葉は、多くの人の心を揺り動かし、

その歩みを促してきました。

とはいえ、真実を明らかにすることができない私です。気がつけ

ば、変えられないものと変えるべきものが区別できずに、妬み嫉ん

でいます。ならば、発想を逆に見ればどうでしょう。人の人生

がうらやましく思えた時こそ、自分の人生と向き合うチャンスだと

考えることができるのではないのでしょうか。自らのあり方に立ち戻

り、地に足をつけて振り返る機会だと。

立ち戻る場所があり、依るべき所がある。ニーバーにとってはそ

れが神であり、私には阿弥陀様なのです。我に返ることができる、



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報に振り回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…と思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。



場所があるからこそ、人生を見つめ直し、何度でも歩み直すこともできるのでしょうか。そんな営みは同時に、この私に向けられた慈しみや恵みを、少しずつ気づかせてもくださるのです。■

Monthly Words



このささやかで

すごいこと

極楽寺掲示伝道

1月の言葉

ささやかではありますが、今、私は生きています。

この事実^{事実}は、父と母の存在^{存在}があるからこそ成り立ちます。その父と母にも、また父と母（私にとっては祖父と祖母）がいるわけで、祖父と祖母にもそれぞれ父と母がいます。遡^{さかのぼ}るほどにその人数は増えていき、五代前まで遡ると、その合計は六十二人。十代前まで遡ると、二千四十六人。二十代前まで遡ると、二百九万七千五百五十人。三代前まで遡ると、何と二十一億四千七百四十八万三千六百四十六人にもなるのです。

この人数は、あくまでも直系^{ちよっけい}の先祖の数。それぞれの人生は、友人や恩人^{おんじん}、恩師^{おんし}などお世話になった人がいて成り立つわけで、その人たちも含めると、一体^{ふく}どれだけの人がいて今の私があるのでしょうか。その内の一人が欠けても、結果は変わります。ならば、今私が生きていくということは、実はかなり凄い^{すごい}ことではないでしょうか。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

仏典には「一人間として

生をうけることが、いか

に難しい^{むずか}ことか」が、様々

な譬^{たと}えで語られています。

大海^{たいかい}の中に落ちていく

一本の針^{はり}を探^{さが}したすほど

に難しい^{むずかしい}（大海の一寸^{いっせん}）

とか、大海の底に住む目

の見えない亀^{かめ}が、百年に

一度海上に浮かび上る時、

たまたま漂^{ただよ}ってきた流木^{りゅうぼく}

の穴から頭を出すような

確率^{かくりつ}（盲亀浮木の譬^{たと}え）

などとも言われます。

そして、人間に生まれることがこれほど難しいことなのに、それ

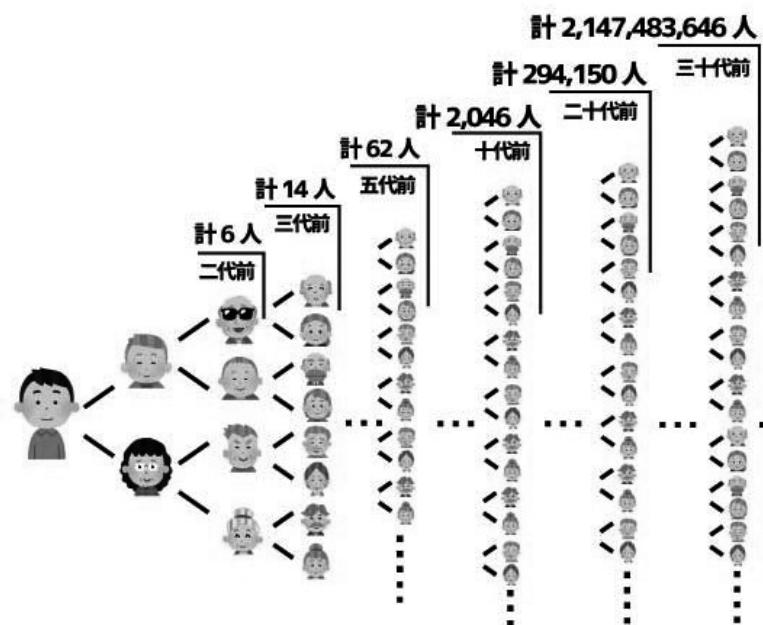
以上難しいのは仏法^{ぶつぽう}に出遇^{であ}うことなのだと語られるのです。

例えば、こんなお話があります。ある時、お釈迦様^{しゃかさま}がお弟子さんと

と歩かれています途中、ふと立ち止まり、足元の土を一握り手のひら

にのせ、こう言われました。「この世界には、この足元の全ての土

と同じくらい数えきれないほどの生命^{いのち}がある。しかし、その中で



人間はこの手のひらにある土くらいしかいない。それほどに、人間として生まれることは難しいことなのだ」と。そして、手のひらの土から一つまみの土を、一本の指の爪の上ののせて、こう言われたのです。「同じ人間に生まれることができても仏法に巡り会うことが出来る人は、この爪の上の僅かな土ほどに、極めて稀なことなのだ」と(爪上の土の喩え)。

実は私、これらの「人間に生まれ、仏法に出遇うことは、これほど稀なことなのだから、喜ばなくてはならない」的な話が、苦手でした。なぜなら、何か押しつけがましい感じがするから。そして何より、エリート意識や優越感を煽る話のように感じていたからです。「私たちは、選ばれた存在なのだ。そのことを自覚しなさい」「仏教徒以外の人は、かわいそうな人たちなのだ」と言われているようで、何か、鼻持ちならない感じがしていたのです。

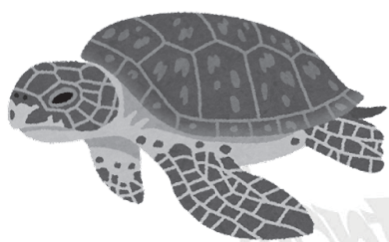
しかし今考えると、それは一面的な受け止めだったと思います。これらの話は、優越感を煽るものではありません。あくまでも、仏法に出遇ったことで知らされた、よろこびと感動の表現だと気づかされたのです。

親鸞聖人は、「たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ(思いがけずこの真実の行と信を得たなら、遠く過去からの因縁をよろこべ)」「教行信証総序」と記されています。今私は、仏法と出遇えたよろこ

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

びと感動の中にいる。その出遇いは「たまたま」としか言えないほど、思いもかけないことだった。幾たび生を重ねても遇えるはずもない私が今、仏法に出遇うことができたのは、まさに爪の上の僅かな土ほどに極めて稀なこと。それは遡って考えると、長い歴史の中で織り成された様々な因と縁によるものであった。そういった言葉だと、私は受け取っています。

つまり親鸞聖人は、仏法に出遇った今をよろこばれただけではなく、遠い過去までが自分に関わるリアルなものとして輝いて見えてきたのです。そして、ささやかなものだと思っていた自分の人生を、とんでもなく大きなスケールのものとして、いただき直されたのです。そんな世界を開いていく仏法って、凄くないですか。



社会学者の大澤真幸先生は、欧米の人たちに比べて日本人は、次の世代のことに對して無関心であり、鈍感であると指摘されています。特に環境問題、人口問題、核戦争の問題などは、今生きている私たちよりへ未来の他者への運命を左右する問題であるはずなのに、そのへ未来の他者への思いに応えたいという意欲に乏しいと。

それは、なぜなのか。大澤先生

は、「未来との関係にあるのではなく、それ以前にまずは過去との関係にある」のだと指摘されます。つまり、「その人たちのおかげで我々の現在がある」「その人たちの願いを引き受けずにはいられない」と思

うような過去の人たち、へ我々の死者と出会っていないからだと。

(司馬遼太郎生誕100年 大澤真幸さんが語る「我々の死者」の喪失 毎日新聞 2023/8/1)

確かに現代社会に生きる私たちは、目先のことばかりを追いかけ、自分の人生をちっぽけなものにしているように思えます。どれほどの歴史の中で、どんな恵みをいただいて、今の私があるか。そんなことなど、ほとんど語らなくなりました。人生を過去の歴史と切り離し、今だけしか見ないのならば、次の世代に無関心にもなるはずでしょう。

今私が生きている。その事実を遡れば、数えきれないほどの人たちの歴史があり、様々な因と縁があるのだと仏法は教えてくださるのです。ちっぽけな国という枠組みさえ超えて、広大無辺なる連なりの中に、自分の人生がいただけるのです。↘



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

私たちの先輩方は、「仏法に出会う時、人間に生まれたことが稀なことだと思えるような、大きな世界が知らされる。自分の人生を成り立たせてくださる世界との出会いが、開かれていく。あなたも、このよろこびと感動にぜひとも目覚めて欲しい」と、へ未来の他者である私たちに語りかけてくださいました。ならば、私もへ我々の死者と出遇い、へ未来の他者を想う歴史の連なりに、参画しなければと思うのです。その営みこそが、スケールの大きな世界の中に、自分の人生を確かなものとして見出す歩みにもなるのだと、教えられるのです。■



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで検索を

又はQRコードから



二〇二四年 極楽寺のご法座

一月一日 元旦会

一月十五〜十六日 御正忌報恩講

三月十四日 春の彼岸会法要

講師 宇部市蓮光寺住職 伊東順浩師

四月十六〜十七日 春の永代経法要

講師 美祢市寂定寺住職 柏宗桜師

五月二十一日(毎年) 清光仏教婦人会 降誕会

六月十二日〜十三日 夏法座

講師 山口市蓮光寺住職 岡本達美師

八月十五日(毎年) 盆法会

九月十四〜十五日 三隅親鸞聖人鑽仰会法会

(極楽寺引受け)

講師 東京 万行寺住職 本多静芳師

九月二十三日(毎年・秋分の日) 納骨堂追悼法要

十一月六〜七日 秋の永代経法要

講師 渋木浄土寺住職 荻隆司宣師

十二月十八日(毎年) 清光仏教婦人会 報恩講

十二月三十一日(毎年) 除夜の鐘つき 初礼拝



ご法座には、
門徒式章をつけて
お参りしましょう

門徒の正装は、門徒式章をつけた服装とされています。喜びも、悲しみも、仏様と一緒に。お参りの際は、式章をおつけ下さい。

2024 (令和 6) 年

年回忌表

一周忌 2023(令和 5) 年往生
三回忌 2022(令和 4) 年往生
七回忌 2018(平成 30) 年往生
十三回忌 2012(平成 24) 年往生

十七回忌 2008(平成 20) 年往生
二十五回忌 2000(平成 12) 年往生
三十三回忌 1992(平成 4) 年往生
五十回忌 1975(昭和 50) 年往生
百回忌 1925(大正 14) 年往生

※ お配りした、カレンダーの台紙にも、書いてあります。

お礼とご報告



アルトツプ収集

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は、5.1kg (空き缶約 17,000 個分)

ウクライナ救援募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計 29,230 円

アユス仏教国際ネットワークを通して、医療品・食料支援のために使われます。

物でお布施

アユス仏教国際協力ネットワークに送り、紛争で傷ついた人たちや難民、国内外の自然災害や環境破壊で困難を強いられた人たちのために役立てます。

《今年分》 CD 12枚 テレカ 118枚 タオル 10枚
切手 29枚 書き損じ葉書 71枚 ビール券 6枚



皆様、本当にありがとうございました

本堂に回収箱を設置しております。これからも、ご協力よろしくお願ひいたします。



□以前、極楽寺にお話に来ていただいた映画監督・森達也さんの最新作『福田村事件』がヒットし、話題になっています。これまで数々のドキュメンタリーを手がけてきた森さんにとって、初の劇映画作品。出演者は井浦新や田中麗奈、永山瑛太、東出昌大、柄本明ら。各メディアにも取り上げられ、毎日新聞では、池上彰さんとの対談が一面に掲載（11月5日）されました。□今から百年前。関東大震災直後の混乱の中、「朝鮮人や社会主義者による放

火や暴動が起きた」というデマが飛び交います。日頃から差別してきた負い目もあってか人々の警戒心は高まり、またそれを煽る者もあり、遂には多くの朝鮮人が虐殺されるという事態となりました。その影響は近隣にも広がり、千葉県福田村（現野田市）でも、香川県から訪れていた被差別部落出身の行商人たちが、自警団や村人らによって殺害されます。讃岐地方の方言を村人が聞き取れず、朝鮮人に疑われたため。今回の映画は、実際に起きたこの事件をモデルに作られました。映画の終盤、殺害される寸前の行商人の一人が、『正信偈』を唱えるシーンが出てきます。全国的にも、被差別部落の人たちの多くは、浄土真宗の門徒だったからです。□村人たちは、自分たちを守ろうとただけでした。善良で、優しく、中には気が弱い人もいます。そんな人々がデマに怯え、恐怖し、自衛のための集団となった時、暴走し残酷な過ちを犯してしまう。それは映画の中の話ではありません。今も、世界中のSNSにはデマやフェイクが溢れ、それに煽られ、実際にヘイトスピーチやヘイトクライムが起きています。「自衛のために」とロシアはウクライナを、イスラエルはガザを攻撃していますし、同様の歴史は、世界中に幾らでもありました。なぜなら、それが人間という生き物だから。私だから。そして、あなただから。その事実を目を背けてはいけない。向き合わなくては、また同じことを繰り返すだけ。森さんを始めとしたこの映画の作り手たちは、そう語りかけています。とても大きな意味を持った映画だと感じました。

□但し、深刻なテーマを扱った映画でありながら、ドラマとして純粋に面白いのです。ちなみに、エンドロールのクラウドファンディング寄付者の中に、住職の名前もあるそうです（一緒に行った坊守が見つけてくれました）。■

お知らせ

Oshirase

元副総代長の磯昭正さんが往生されました。世話人と総代を併せて34年間務めてくださいました。また、27年にわたりお世話をしてくださいました元世話人の西村一夫さんが往生されました。

磯さん、西村さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

除夜の鐘つきのご案内

つきはじめ
11時40分

今年から、つきはじめの時間が変わります。
ご注意ください。

大晦日 今年も、おでんを再開します!



1月1日
朝10時より

元旦会のご案内

今年から、^{がんとんえ}元旦会参拝も再開します。

新年も、阿弥陀さまに手を合わせることから始めましょう。わが家のお仏壇も^{ぶつだん}打敷を^{うちしき}かけて飾り、新年を^{むか}迎えましょう。

※ 参拝者には、記念品を用意しております。

納骨堂新築に向け 十年計画スタートしています

納骨堂は、お墓を建てるより、費用を抑えることができます。
また、維持管理の面やお参りのし易さも、納骨堂の利点です。

新規加入者募集中 詳しくはお寺まで

次回法座
の予定

春の彼岸会法要 3月14日(土) 昼席のみ

講師 伊東順浩 師 宇部市 蓮光寺住職

今年もお世話になりました。来年も、よろしく願いいたします。(極楽寺一同)